

[話題提供名] クニマスの産卵生態について

[要約] 西湖の湖底に設置したモニタリングカメラにより、クニマスの産卵の瞬間を動画撮影することに成功した。R7 の親魚来遊状況は概ね平年並みだが 1 ヶ月程度ピークは早く、また、親魚ペア数が例年より少なく R7 の産卵数が少ない可能性が示唆された。

[担当] 山梨県水産技術センター・青柳敏裕

[分類]

[課題の要請元] 食糧花き水産課、西湖漁協、富士河口湖町

[背景・ねらい]

R2 年度にクニマス産卵場湖底に設置した水中ビデオカメラにより、クニマスの産卵状況や産卵生態、再生産に影響を及ぼす因子（ウナギによる食卵等）を観察してきたが、R8 年夏に故障の後、モニタリングが中断していた。R7 年 11 月に湖底カメラの復旧が完了したことから、産卵状況のモニタリングを再開する。

[成果の概要]

1. クニマス産卵の瞬間について、初めて明瞭な映像を確認し、映像を公表した。
クニマスは多くのサケ科魚類と同様、湧出水のある湖底の礫を掘って産卵床を造成し、礫中に卵を埋設することが映像から確認された（図 1）。
2. R7 産卵期の来遊状況は、定点カメラによる撮影数が産卵ピークで概ね 10-15 尾程度であり、平年並みと推測された（図 2）。
3. クニマスの産卵ピークは例年 12 月中旬～1 月上旬と推定しているが、R7 は例年より 1 ヶ月程度、産卵ピークが早かった可能性がある。親魚ペア数は平均 1 ペア程度と例年より少なく（図 3）、産卵数が多くなかった可能性が懸念される。

[成果の活用上の留意点]

特になし

[期待される効果]

クニマス保全の基礎資料（産卵生態に関する知見集積）

[具体的データ]

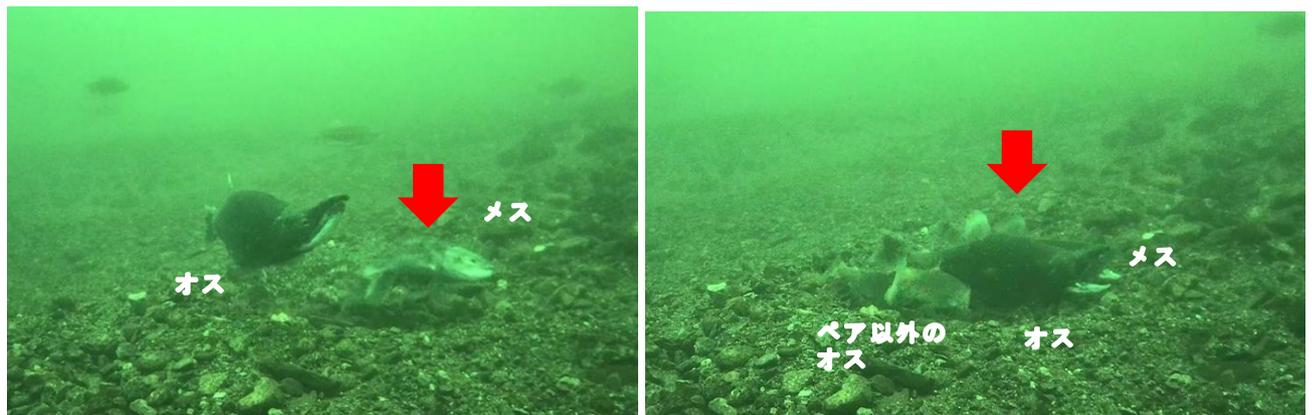


図1 クニマスの産卵の瞬間

左：雌による産卵床の掘り行動（矢印）。雄は後方に待機し、近づく他の雄を追い払う。
 右：産卵の瞬間（矢印）。手前に雄、奥に雌が並び、口を大きく開けて産卵及び放精している。
 ペアの後方から小型雄3尾が産卵の瞬間に割り込み、放精している。

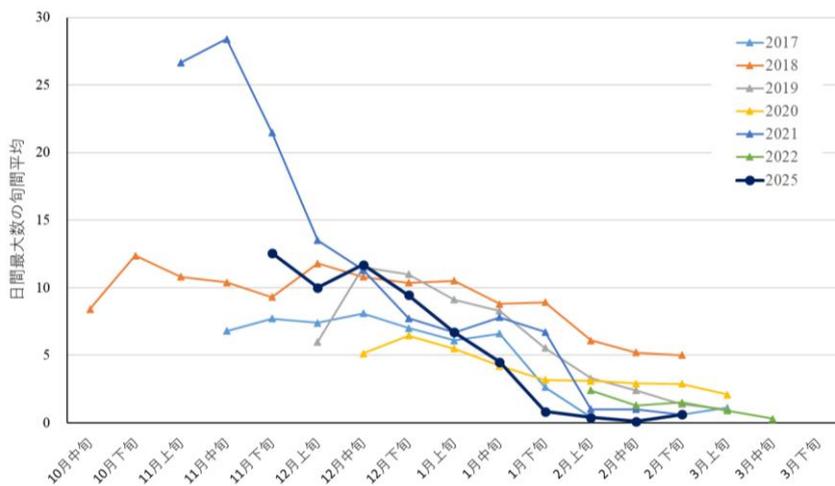


図2 クニマス親魚の来遊状況
 (カメラ映像中の日間最大数の旬間平均)

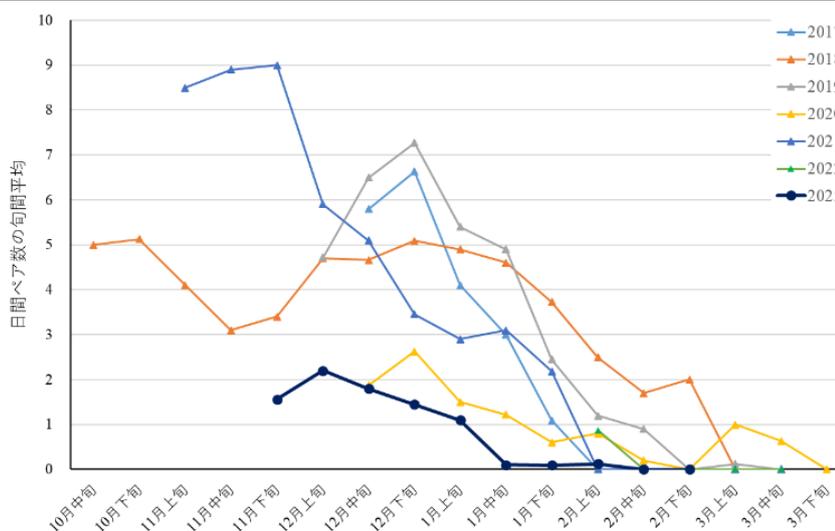


図3 親魚ペア数の推移
 (カメラ映像中の日間ペア数の旬間平均)

[その他]

研究課題名：クニマスの保全と養殖に関する研究 予算区分：県単 研究期間：2020年～
 研究担当者：青柳敏裕、三浦正之、芦澤晃彦（2022～2023）、加地弘一（2020～2021、食糧
 花き水産課）